



事務局から一言

事務局長 佐藤 成彦（水戸）

平成 25 年 6 月 22 日（土）、国臨協関信支部茨城地区会定期総会において平成 25 年度の役員が右記のように承認されました。本年度の事務局を預かることになりました水戸医療センターの佐藤です。県下三施設で連携を取りながら、会員の学術並びに技術の向上、会員相互の親睦を図って活動して参りたいと思います。先日行われました第 41 回国臨協関信支部学会（平成 25 年 9 月 7 日）の地区会紹介コーナーでは、霞ヶ浦医療センター会員の皆様には特にご尽力を頂き、特色のあるポスターを掲示することが出来ました。今後の活動としては、年末に「いばコミ」の発行。1 月には文化交流として新年会とレクを企画したいと考えています。

今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしく願いいたします。

平成 25 年 11 月 22 日発行 第 13 号

国臨協関信支部茨城地会

発行責任者 藤澤 紀良（水 戸）

編 集 佐藤 成彦（水 戸）

阿部 浩（霞ヶ浦）



平成 25 年度国臨協関信支部

茨城地区会 役員

会 長	藤澤 紀良（水 戸）
副会長	青木 貞男（茨城東）
副会長	海原 桂一（霞ヶ浦）
事務局長	佐藤 成彦（水 戸）
理事（会計）	田島 秀昭（水 戸）
理事（渉外・学術）	椎名 将昭（茨城東）
理事（広報）	阿部 浩（霞ヶ浦）
精度管理委員	町田 和基（水 戸）
精度管理委員	小池 勝人（茨城東）
精度管理委員	原 正敏（霞ヶ浦）
会計監査	赤堀 良道（茨城東）
会計監査	岡村 治（霞ヶ浦）
役員推薦委員	草薙 真里（霞ヶ浦）

退職するにあたって

霞ヶ浦医療センター 海原 桂一

本年9月の関信支部学会に於いて支部表彰に推薦していただきまして茨城地区会会長はじめ会員の皆様にお礼を申し上げます。



昭和54年より当時の国立療養所東京病院に採用され、下志津病院、横浜病院、国立国際医療センター、新潟病院、再度下志津病院へそして霞ヶ浦医療センターと6回の転勤と1回の単身赴任を経て35年間良き先輩、同僚、後輩に恵まれ辛い時期もありましたが、良い経験となり充実した日々を過ごす事が出来ました。

東京病院では15年間を過ごし結核菌検査から始まり生化学や血清検査、微生物検査など検体系を中心に仕事をしていました。また、当時は仕事以外にスポーツも盛んで野球、テニス(軟式)、バレーボール大会がありました。東京地区では野球は多磨全生園、テニスは東京病院が圧倒的に強く、テニスは8連覇の偉業に輝き楽しかった日々が今は懐かしく感じられます。

この35年の間、国立病院・療養所の再編成計画の見直しにより独立行政法人国立病院機構が発足されました。

団塊の世代の大量退職があり、この様なピンチをチャンスに生かし検査技師として各人がはっきり目標を掲げ、病院に必要とされる検査科(検査技師)を目指してほしいと思います。

霞ヶ浦医療センターに赴任して約2年と6カ月が過ぎ、半年ほどで退職になりますがまだ実感は湧いてきません。

霞ヶ浦医療センター赴任当時は東日本大震災の影響により、院長はじめ各職場長の早朝ミーティングを行い、諸問題について共有化し仕事を開始していました。患者数も激減し病院全体に活気がなく心配していましたが、昨年来より土浦市の寄附講座設置やリストアップランにより徐々にではありますが上向き傾向になり、最近では新棟構想の話もちらほら持ち上がってきています。

今年度の黒字化に向け、そして自分たちの目指す医療ができる病院になるように残り少ない時間を費やしていきたいと思っています。

茨城地区会におかれましても今年で33回を迎え、今後益々のご発展と会員皆様のご健康とご活躍を祈念しています。

霞ヶ浦医療センター 富谷 千恵子

第41回国臨協関信支部学会において支部表彰を頂きありがとうございました。推薦して頂いた茨城地区会会員の皆様に厚くお礼を申し上げます。



昭和49年に旧国立霞ヶ浦病院に採用され、平成12年に旧国立水戸病院に、平成20年に現在の霞ヶ浦医療センターに配置換えになりました。

今日まで大きな事故もなく、この日を迎えられる事が出来たのも多くの良き上司や先輩・同僚の方々のご指導と励まし暖かいご援助を頂いたお陰と感謝しております。

「袖すりあうも他生の縁」と申しますが良き上司・良き先輩・良き同僚・後輩の方々に恵まれましたのは、私にとって何よりの幸せであります。

私が就職した頃の霞ヶ浦病院は忙しく毎年のように検査技師が増員されていました。検査内容の多くは手仕事による操作が大半を占め、先輩たちの職人技ともいえるピペット操作さばきや、他の技師と反応時間がかち合わないようには時間配分を工夫しながら仕事をしていました。

検査結果は手書きで記入し、至急の結果は電話で報告するためトラブルも多くありました。今では当たり前の電子カルテやオーダーリングシステムは画期的であり時代の流れを感じます。若い（当時は私も）女性技師が多かったため食事や休日のドライブなど、現在でも彼女たちとは連絡を取り合っています。

水戸病院は電車通勤で9年間通い、車窓からの眺めから四季を感じた事を懐かしく思います。水戸病院は検体数も多く、救命センターがありいろいろな疾患の患者様が多く入院していましたので、勉強にもなりましたが、とにかく忙しい!! 毎日でした。

赴任した頃から茨城町への移転の準備が始まり、平成16年9月末に病院の引っ越しという大イベントがあり、自衛隊の援助により患者様の搬送、新病院での検査室の立ち上げなど貴重な経験をさせて頂きました。

現在の霞ヶ浦医療センターに配置換えになり平成23年3月の東日本大震災で怖い思いをしましたが、最近では新棟の話もちんちん？出はじめています。

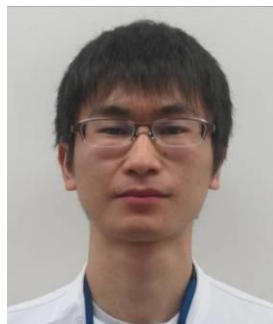
無事にゴールするまで残り少ない期間ではありますがもう少し頑張りたいと思います。

最後に、茨城地区会会員の皆様に深く感謝申し上げますと共に茨城地区会の益々のご発展を祈念して退職の言葉とさせて頂きます。ありがとうございました。

新人紹介

水戸医療センター 福嶋 一成

平成25年7月1日付で水戸医療センターに採用になりました、福嶋 一成（ふくしま かずなり）です。



平成24年3月に東京電子専門学校を卒業し、千葉医療センターで非常勤職員として勤務し、今回水戸医療センターにお世話になっています。

出身は埼玉県北本市です。

茨城県に越してきて初めは千葉県民の意識が残っていましたが段々と茨城県民へと意識が変わってきました。茨城県の生活へはようやく慣れてきたように感じます。まだまだ水戸市周辺の店しか開拓はしていませんが、少しずつ範囲を広げて茨城県の新たな発見をしていきたいと考えています。

千葉医療センターでは主に一般検査を担当し沈渣と睨めっこする日々が続いていましたが、水戸医療センターでは生化・血清検査を担当させて頂いています。

今まで携わったこのない業務でわからないことばかりですが、先輩方のご指導のおかげで一步一步前進しています。

学生時代は陸上競技部に所属していたので、諦めず長く続けることの大切さは身を持って経験してきました。その精神を忘れることなく辛いことがあっても一生懸命勤めて行きたいと思います。

最後になりましたが、霞ヶ浦医療センター、茨城東病院の皆様、まだ半人前な私ですがご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

水戸医療センター 古賀 菜摘

今春 3 月に筑波大学を卒業し、4 月 1 日付で水戸医療センターに採用となりました、古賀 菜摘（こが なつみ）です。



出身は茨城県ひたちなか市で、現在は実家から車で通勤しています。

生まれ育った馴染みのある茨城県で、夢であった臨床検査技師としての一年目を迎えられたことをとても嬉しく思っています。

趣味は、社会人になって新たな趣味を作ろうと模索中ですが、3 歳から高校生まではクラシックバレエを習っていました。学生時代、学校帰りや土日はレッスン場に通ってバレエ漬けの日々を過ごしていました。辞めてから随分経ちますが、当時のハードなレッスンの

おかげで忍耐力と持久力は多少つき、運動音痴な私ですが体を動かすことは好きで、天気の良い日は地元や千波湖をランニングしたりしてリフレッシュしています。

7 月までは免疫・血清検査を、現在は生理機能検査を担当しています。採用からあっという間に半年が経ちました。先輩方に支えていただきながら少しずつ慣れてきましたが、まだまだ毎日失敗と新しい発見の連続で、自分の勉強不足を痛感しながらも、日々とても良い経験をさせていただいていると感じています。

最後になりましたが、検査科の皆様の温かい支えのもと、恵まれた環境の中で毎日業務に取り組めることを心から感謝しています。まだまだ未熟で皆様にはご迷惑をおかけしますが、少しでも多くの事ができるように頑張りますので、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

この夏の思い出

茨城東病院 赤堀 良道

趣味の一つに釣りがある。中でもマダイは「姿、引き、食」三拍子揃った海魚の王様でありアングラーを熱くさせる。



マダイ釣りは北海道・沖縄を除く日本全国、一年中狙え、旬が 2 回ある。1 回目は、「桜鯛」と呼ばれる 3 月～6 月頃の産卵にそなえて深場から移動し、栄養を蓄える時期で東海・関東では、静岡県・御前崎沖からスタートする。

2 回目は、9 月～11 月頃、深場に移動する「紅葉鯛」である。

また、7 月～8 月頃のマダイは、産卵後で痩せて「麦わら鯛」と言われ麦の収穫時期に中り、美味しくないと言われている。

今度、一度大海原に出てみませんか・・・



茨城東病院 磯部 祥子

私はこの夏、カンボジア王国にあるアンコールワットへ旅行しました。

アンコールワットはアンコール＝大きな、ワット＝寺院という意味で、12世紀の古代都市の遺跡の一部です。



写真はアンコールワットの夜明け（池の鏡面像が素晴らしい）、タプローム（映画・トゥームレイダーの撮影が行われた場所。）



昼ご飯のクメール料理（ココナッツの器に入った白身魚と野菜のカレーのようなもの）です。

一生の思い出になる夏休みでした。



霞ヶ浦医療センター 原 正敏

こんにちは、霞ヶ浦医療センターの原正敏です。

今年の夏休みは故郷・地元である兵庫県姫路市の実家に帰省していました。

妹が今年の春から独り立ちをして、実家を出て両親2人だけになり数カ月経ちましたが、どこか寂しそうにしていました。

両親は久しぶり会えて嬉しそうに自分を出迎えてくれ、自分も幸せを感じることができました。久しぶりに両親と一緒に食事をしたり、遠出をしたりして楽しい時間を過ごすことができました。また、両親の元気そうな顔が見られてホッとすることができました。

しかし、実家に帰省した時期は、みなさんの記憶に残っていると思われる京都の桂川や鴨川が大氾濫した台風18号の影響で、兵庫県もかなり雨・風が強く一日中外出できない状態でした。翌朝には台風も通りすぎて姫路の天候は空気が美味しい快晴となりました。その日は、高校時代の親友と会う約束をしてお互いに地元を離れて長かったため、普段なら言わないであろう国宝である姫路城に久しぶりに行こうということになりました。



現在は大天守保存修理工事中の素屋根で覆われ、普段では見られない大天守上層部の外観や大天守の大屋根、漆喰壁などの修理工事の様子を見学することができました。修理現場では、姫路城の瓦や漆喰壁の特徴、漆喰の

材料・産地や製造方法、保存修理作業プロセスを復元模型・図解・写真を用いて紹介してありました。

2枚の写真は訪れた時に収めました。

1枚目の写真は桜門を通る前に撮った姫路城の全体風景です。

2枚目の写真は大天守保存修理見学施設＜天空の白鷺＞で撮った大天守大屋根の現状風景です。



今回、訪れてみて姫路城の偉大さをしみじみと感じることができ素晴らしい夏休みの思い出が創ることができました。

茨城地区会会員の皆さまももし姫路を訪れる機会があれば、是非姫路城を訪れてみてはいかがでしょうか。



霞ヶ浦医療センター 玉木 佑介

茨城地区会の皆さん、こんにちは。霞ヶ浦医療センターの玉木佑介です。

検査業務は生理検査を担当しています。私の出身は新潟県で、今年の夏休みは新潟の実家に帰省していました。私の実家には兄の3歳の女の子と1歳の男の子がおり、また同じ新潟県内で暮らす弟にも今年生まれた男の子がいて、とても賑やかな状況です。家族と久しぶりに一緒に食事をしたり、子供たちと遊んだり、楽しい時間を過ごすことが出来ました。久しぶりに会ったついでに、弟に出産のお祝いを渡してきたので、痛い出費となりました。



これから、子供たちが進学などの祝い事のたびに、出費がかさみ、これ以上人数が増えるのは嬉しい反面、勘弁していただきたいと複雑な気持ちです。年に数回しか帰省できませんが、久しぶりに家族の顔を見て安心できました。次に帰省した時に甥や姪の成長した姿を見るのが楽しみです。



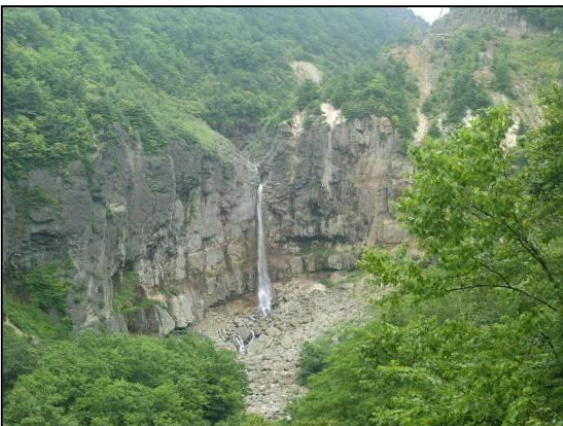
水戸医療センター 藤澤 紀良

若い頃から温泉大好きであったが、最近年のせいか温泉に入っただけのんびりとしてボーとしているのが至福の一時とを感じるようになってきた。

今年の夏、福島から栃木の秘湯巡りをしてきたので、無料で入れる天然温泉の1つを紹介する。福島県猪苗代町にある沼尻湯元の硫黄川、その上流が温泉となっている。そこには沼尻スキー場グレンデ沿いのデコボコ砂利道を10分ほど苦戦しながら登っていくと駐車場に辿り着く、ここから先は徒歩で行くのだが、「白糸の滝見学か登山コース（約1時間）」と「温泉への近道コース（約30分）」があり、近道コースには「危険・進入禁止」の看板が立てられている。



我々は近道コースを選択したのだが、その山道は想像をはるかに超える狭さ、そこに加えサンダル履き、高所恐怖症？もあり足はガタガタ震えるし、もっと下調べをしてくれば良かったとチョット後悔、でもここまで来たらも



う直進あるのみ。歩き始めて10分もすると、白糸の滝が見えてきた、その辺からかなり硫化水素臭が漂ってきた。そこから奥に15分くらい歩くと硫黄川で数名の若者が温泉浴を楽しんでいた、我々は更に5分ほど上流に進み、川（温泉）の温度が40℃弱の程良いことを確認し、傍目も気にせず素っ裸になって、硫黄で小石や岩がヌルヌルすべる白濁する川（天然温泉）のなかに。



そこにまた「危険・進入禁止」の立て看板があったのだが、馬鹿な親父達はそんなもの気にせず大自然の恵みを堪能、日頃の疲れきった体と病んだ心は温泉ですっかり癒やされた。それもつかの間、また険しい帰り道。硫黄色に染まったタオルを頭に鉢巻きにしフラフラと歩いていると、若い女性二人が水着で入浴している姿を発見。徒歩スピードを緩め、眺めながら歩いていると、な何とマムシに遭遇、迂回したくとも一本道なので恐る恐るそっと小走りで逃げたのだが、マジでこれが最後の死湯巡りになるかと思った。

昼ご飯は何处で食べようか？、ちょっと遠いが大内宿に『ネギそば』を食べに行こうとなり、ひとつ飛びと思いきや思った以上に遠く、やっとありつけた昼食のネギそばはネギが辛くて……。腹拵えもしたので、もうひとつ風呂浴びようと塩原温泉に行った、そこには羨ましいことに不倫ペア？が先に入っていた、この不動の湯は先の温泉とは成分が



異なり、また新たな温泉浴を楽しんだ、今回は移動時間が長かったので湯あたりもせず、楽しい一日を過ごすことができた。帰りは雨模様であったが、のんびりと安全運転で帰宅の途についた。

注意：この天然温泉では、過去に高濃度の硫黄水素で亡くなった方もいるとか・・・でも温泉好きには、死を覚悟してでもこの自然の恵み（天然温泉）には、その価値はあるかも？皆さんも自己責任のもと、チャレンジしてみても如何ですか。



水戸医療センター 鈴木 芳明

夏休み、妻の実家に帰省した際、八ヶ岳（編笠山）に息子と登山してきました。

八ヶ岳は、赤岳（標高 2,899m）を最高峰に権現岳・横岳・阿弥陀岳など八つの山々からなる峰です。



八ヶ岳にはこんな昔話があります。

昔々、毎日美しい八ヶ岳（男神・権現さま）の山を目の前に見ていた富士山（女神・浅間さま）が、自分の方が背が高いと自信があったので、八ヶ岳と背比べをしようと言い出しました。どうやって比べればいいかわからず阿弥陀如来さまに相談し、阿弥陀如来さまは富士山と八ヶ岳の間に長い長い樋を置いて真ん中から水を流すという方法を教えました。水は低い方向に流れますが、その時富士山の方に水が流れたそうです。

負けず嫌いの富士山は、これに怒って八ヶ岳の頭を蹴っ飛ばしたので、八ヶ岳の頭が欠けてギザギザの形になってしまい、悲しくて毎日泣いていた八ヶ岳の涙が溜まり諏訪湖ができたそうです。これは昔話ですが、八ヶ岳を調べた研究者によると、約40万年前には4千メートル級だった可能性があり、火山の噴火・浸食を繰り返し現在の形になったとの説がありました。太古の昔では八ヶ岳は、現在の富士山（標高 3,776 m）よりも高かったのかもしれない。

登山の話ですが、以前より筑波山・大山・金時山など、茨城や自宅神奈川の低山には登っておりました。しかし八ヶ岳は初めてなの

で、八ヶ岳の中では登山しやすい編笠山（八ヶ岳連峰の最南端に位置する標高 2,524m の編笠を伏せたなだらかな山容が山名の由来）に登ることにしました。



普段は朝なかなか起きない息子をなんとか起こし、観音平駐車場を起点に登りはじめ、樹木の間をゆっくりと景色を楽しみながら歩きだしました。初めはなだらかだった山も高山ですから途中から急に大きな岩場やきつい上り坂、暑さも加わり徐々にきつく感じ始めた為、途中休憩で休んでいると地元の方と偶然一緒になり、少しだけ山の話聞くことが出来ました。その方は八ヶ岳の山々と豊かな自然が好きで、時間が空けば登山している常連さんでした。登りだして3時間ぐらいで頂上に着きましたが、あいにく頂上には雲がかり景色はあまり見られず、それでも途切れ途切れに八ヶ岳の山々を見ることができました。晴天時だったら、富士山・諏訪湖なども見ることができ、さぞかしきれいな景色だったであろうと、ここは残念。

下山は登りと別ルートで下りましたが、大きな岩がごろごろ連なっている所で、岩と岩の間に落ちない様に慎重に岩場などの上を歩いていて、足に疲れがかなりきました。普段サッカーをやっている中三の息子も段々に『疲れた・まだ』発言が多くなり、それでもなんとか無事に下山することが出来ました。登山を終えて、息子とふたり安堵感と達成感を感じ、息子は思わず母に「登れたよ」とメ

ールしたほどでした。

今回、編笠山を登山し、普段単身赴任で離れている息子と男同士、とても有意義な時間を過ごすことが出来た夏の日でした。



編集後記

今年の本誌は、お二人の退官をされる方と新人2名のご紹介と、6名の方からこの夏休みでの思い出を寄稿していただきました。長く務められた方からは、今までを振り返り、新人の方はこれからの希望を述べ、相對するような感じですが、こうして掲載させていただくと「バトンタッチ」が出来ているように思えました。

また、夏休みでの思い出ではそれぞれの方が趣味や家族の事と言った、なかなかお話が聞けないことを頂戴し、ありがとうございます。

日に日に寒くなり、インフルエンザの季節を迎えます。

会員の皆さまには、どうかご自愛いただきお忙しい年末を乗り越え、新しい良き年を迎えられますようお祈りいたします。

（記：阿部）